

尚絅学院は
125周年を
迎えました



写真よりもリアルな世界を鉛筆で描く

RYO SOMA

相馬 亮展

- reason of being -
存在の意味

2017.9/22(金) - 24(日)

名取市文化会館 展示ギャラリー 10時00分～17時00分

入場は無料です。駐車場の収容台数には、限りがございます。公共交通機関をご利用になるか、できる限り乗り合わせてご来館くださいますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

【関連イベント / 講演会】

『絵を描き続けるということー画家・美術教育者として生きる』

日時: 9/23(土祝) 14:00～16:00 場所: 名取市文化会館小ホール

※入場は無料です。事前の申込みは不要です。席ってご参加下さい。

【主催】尚絅学院大学

【後援】名取市、川崎町、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会
名取市教育委員会、宮城県中小企業家同友会

 **尚絅学院大学**
SHOKEI GAKUIN UNIVERSITY

【お問い合わせ】
尚絅学院大学政策企画室 TEL: 022-381-3301
【作家URL】<http://soumario.net>
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
(TEL) 022-381-3300 (URL) <http://www.shokei.jp>



名取市文化会館
Natori City Cultural Center

〒981-1224 宮城県名取市増田字柳田520 TEL 022(384)8900/FAX 022(384)6684



相馬 亮展

- reason of being -

存在の意味



相馬 亮

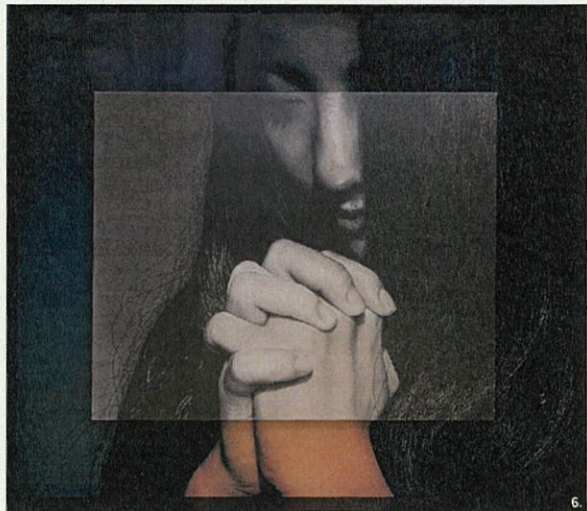
1975年福島県生まれ。画家・大学教員(美術教育)。福島大学大学院教育学研究科を修了後、学校法人桜の聖母学院小学校(福島県福島市)で図画工作科専科教員として7年、同学院中学・高等学校で美術専任教員として7年在職。2014年より尚絅学院大学総合人間科学部子ども学科に在職。保育者、小学校教員養成のために力を注いでいる。日本美術家連盟会員、モダンアート協会会員、新現美術協会会員、等。

この度、本学総合人間科学部子ども学科准教授である相馬 亮が歴史的価値のあるフランス・パリの第227回ル・サロン展において日本人として唯一銅賞を受賞しました。この受賞および本学院創立125周年を記念して、講演会および受賞作品を含む展覧会を開催致します。

また、本学の日頃からの地域貢献に関する取り組みとアートを名取市民の方々に触れてもらえる機会をつくりたいという同氏の思いから、今回の受賞作品を名取市へ寄贈することとなりました。是非、画家、また美術教育者として「美」と「教育」にかける同氏の作品をご高覧いただければと存じます。

【展覧会・受賞歴】

- ・第64回モダンアート展、協会賞・損保ジャパン美術財団賞(東京都美術館, 2014)
- ・モダンアート展in金沢21世紀美術館(金沢21世紀美術館, 2014)
- ・第49回銀座スルガ台画廊「レスポワール展 相馬亮」(銀座スルガ台画廊, 2015)
- ・第65回モダンアート展、佳作賞および日本画材工業賞(東京都美術館, 2015)
- ・公募団体ベストセレクション2015 美術(東京都美術館, 2015)
- ・第65回新現美術協会展(せんだいメディアテーク, 2016)
- ・第10回美術家連盟新会員奨励展(美術家連盟画廊, 2016)
- ・四人展 -それぞれの人物像- (銀座スルガ台画廊, 2016)
- ・第227回 LE SALON 2017, Medailles de Bronze(銅賞)(フランスパリ, 2017)



第227回 LE SALON 2017, Medailles de Bronze(銅賞) 受賞作品

創設は1667年。ル・サロンとは、ルイ14世の提言によって生まれた世界最古の公募展です。マネ『オランピア』、ドラクロワ『民衆を導く自由の女神』、ミレー『種をまく人』などは全てル・サロン入選作であり、その他にもアングルやジェリコー、ルノワール、モネ、セザンヌといった美術史上に残る多くの巨匠たちが、この展覧会をステップに、芸術家として大きく成長しました。さらに、パリの凱旋門やニューヨークの自由の女神などもまた、ル・サロン出身の芸術家の手によるものです。

ル・サロン入選は、簡単ではありません。例えば“近代絵画の父”と呼ばれるセザンヌの場合、22歳から挑戦を続けたものの、初入選を果たしたのは43歳の時だったのです。現在ル・サロンは「アール・キャピタル(フランス四大歴史的サロン合同美術展)」の中で開催されています。会場は、1900年パリ万博のメイン会場として建てられた「グラン・パレ」。ここに作品が展示されることは、世界中のアーティストにとって大きな喜びであり、名誉です。

2017年、227回目の開催となったこのル・サロンに、日本人画家として数少ない入選を果たし、ただひとり上位の賞を受けたのが相馬亮氏でした。カラー写真と鉛筆画を組み合わせた氏の作品。それは、単なる写真画ではなく、現実と虚構の狭間にある幻影を描いた稀有な一枚です。この妖しい魅力に溢れた作品に審査員が高い評価を下したことは、ある意味で必然だと言えるでしょう。ル・サロン銅賞受賞をきっかけに、氏が今後どのような進化を遂げていくのかに注目していきたいと思います。

「美術屋・百兵衛」編集長 松尾 美喜

1. 『one day - noise of the city -』鉛筆・塩ビシートプリント / P150 / 2017年
2. 『Kallos - 清浄 -』鉛筆 / F8 / 2016年
3. 『朽』鉛筆・水彩絵具 / F15 / 2016年
4. 『selfie-MIKI-』鉛筆 / S30 / 2017年
5. 『one day - self portrait -』鉛筆 / S30 / 2016年
6. 『one day - 平和への祈り -』鉛筆・塩ビシートプリント / 162×182cm / 2015年
7. 『She - KYOKA -』鉛筆・塩ビシートプリント / F50 / 2015年

